

京都市小学校児童

# 水泳能力調査結果報告書

令和7年度

京都市教育委員会  
京都市小学校教育研究会体育部

令和7年度京都市小学校児童 水泳能力調査結果報告書

目 次

1 調査の概要	.....	1
2 今年度の結果と考察	.....	2

# 調査の概要

1. 目的 本市小学校児童の水泳能力調査を行い、児童の水泳能力の実態を把握し、今後の水泳指導の基礎資料とする。
2. 対象 プール保有校の3年生以上の児童を対象に調査する。
2. 調査時期 令和7年度プール開設期間中
3. 調査方法 京都市学童水泳能力基準表(以下)により水泳指導終了時の記録を調査する。

## 京都市学童水泳能力基準表

※1級	クロール50m、平泳ぎ50m、どちらも泳ぐことができる
※2級	クロール25m、平泳ぎ25m、どちらも泳ぐことができる
※3級	クロールか平泳ぎ、どちらかで25m泳ぐことができる
4級	呼吸(息継ぎ)をしながら25m浮いて進める(泳げる)
5級	10m浮いて進める(泳げる)
6級	5m浮いて進める(泳げる)
7級	け伸び(2m程度)ができる

※高学年は1～7級、中学年は4～7級を調査報告の対象とする。

### 4. 令和7年度 標本数 (人)

	男	女	計
3年	4,515	4,284	8,799
4年	4,767	4,364	9,131
5年	4,635	4,438	9,073
6年	4,754	4,445	9,199
計	18,671	17,531	36,202

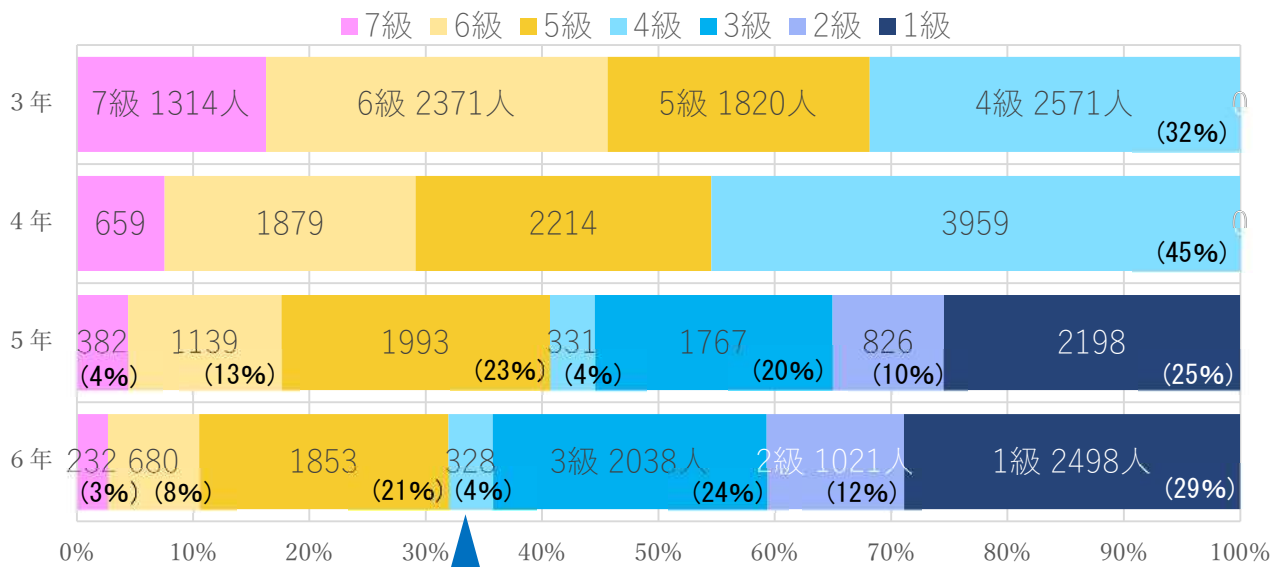
### 5. 令和7年度 集計結果 (人)

学年	性別	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級	計
3	男	672	1,109	975	1,392				4,148
	女	642	1,262	845	1,179				3,928
4	男	300	834	1,097	2,284				4,515
	女	359	1,045	1,117	1,675				4,196
5	男	167	477	915	175	962	425	1,284	4,405
	女	215	662	1,078	156	805	401	914	4,231
6	男	101	288	787	182	1,092	531	1,526	4,507
	女	131	392	1,066	146	946	490	972	4,143

# 1 今年度の結果と考察

下のグラフは、泳力級の割合を学年ごとに示したものである。

資料①【令和7年度】 学年ごとの泳力級別比較



25m以上泳げる。(6年生 69% 5年生 59%)

上のグラフの通り、今年度も学年が上がるにつれて6級や7級の占める割合が低くなり、4級（25m以上）の割合が高くなっている。学年とともに泳力が伸び、70%程度の児童が卒業までに25m以上泳ぐ力を身につけることができている。男女別に見ると（資料②）25m以上泳ぐことができるのは、男子で70%以上、女子で60%程度である。水泳能力調査の結果は、ここ数年ほぼ横ばいで推移している。

6年生で25m以上泳ぐことができる児童をさらに増やすためには、息継ぎを習得することが重要である。中・高学年での指導のみならず、低学年から水遊びを通して、バブリングやポビングといった息継ぎの経験に加え、準備体操でクロールの手の動きを取り入れるなど、呼吸法や体の動きの習得につながるような学習を工夫することが求められる。

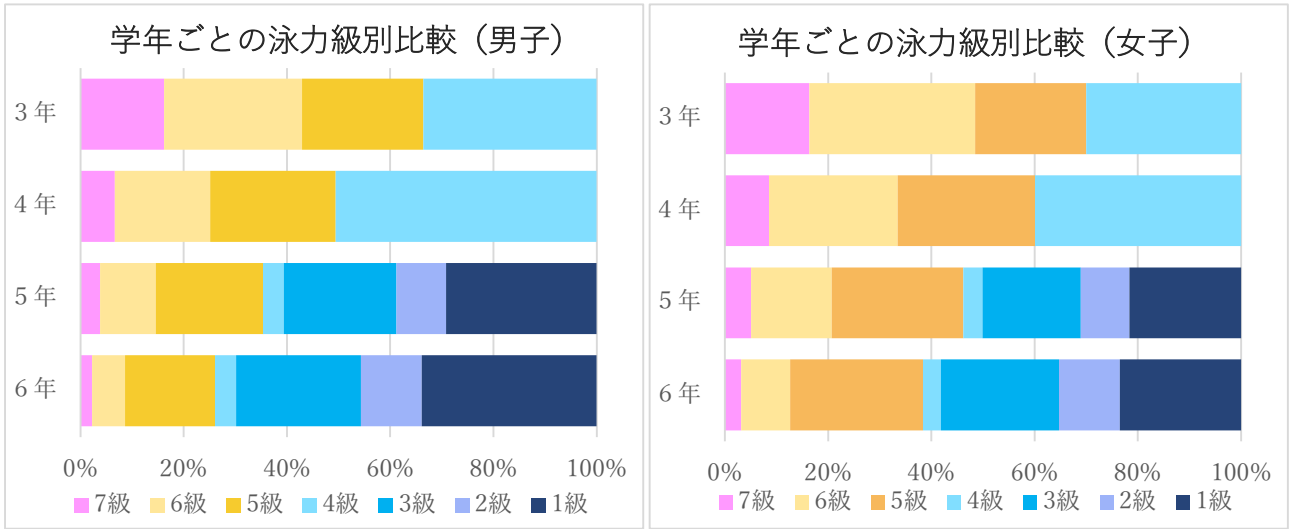
体育科の指導では、個人の目標に主体をおいているが、指導者は評価規準を意識しなければならない。評価規準や評価方法を検討するときに、京都市学童水泳能力基準表を参考にすることも考えられる。しかし、泳いだ距離のみで評価するのではなく、息継ぎの方法や手のかきなどの体の動かし方をしっかりと評価していく必要がある。

さらに、学習の工夫と、つけるべき力（3つの資質・能力）を明確化することで、今よりも学習の効果を高め、技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力人間性等も併せて身に付けられるようにしていきたい。

泳力が伸びる根幹にあるのは、児童の「もっと長く泳ぎたい」「新しい泳ぎを獲得したい」という思いである。その思いを大切にしつつ、指導者が系統性を意識して、次の学年につなげていくことが大切になる。

(参考資料)

②令和7年度 男女別、学年ごとの泳力級別比較



③令和6年度 学年ごとの泳力級別比較

